



## ◆当面する重点作業・技術

1. 病虫害防除のため袋かけが終了していない場合は、できるだけ早く行う。  
ただし袋かけと高温が重なると、日焼け果が発生するので、**日焼け防止対策**を徹底する。  
降雨後の水滴がついている状態での袋かけは、病気の発生を助長するので行わない。
2. 副梢の発生が多く棚面が暗い園は、摘心等の適正な新梢管理を徹底する。
3. 梅雨明け後は高温による急激な土壌水分の変化で樹が弱るため、降雨が無い場合は5～7日おきに**計画的なかん水**に努め、水分ストレス(葉焼け・裂果・着色不良・粒伸び不足・成熟遅延)の予防に万全を期す。
4. 裂果に注意する。  
計画的なかん水を行うが、遅れると果てい部が弱り、果てい部裂果の要因となる。  
裂果は干ばつ状態のところへ急にかん水(降雨)したときに発生する。  
全体に赤く着色し、糖度も13%台になる7月下旬は果皮が弱く危険期間である。
5. 裂果粒の発生・着色状態を把握するため袋を除いて観察し、ひどいものは処分する。  
※園内2～3カ所(南西側回り)、強め・弱めの新梢5本辺りについて調べる。

## ◆第10回薬剤散布について(前回散布14日以内)

1. 散布時期… 前回散布2週間以内(晴天が続いても20日以上空けない) 散布日 月 日
2. 調合量… 水100ℓ 当り ※混用順に記載

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
i c ボルドー66D	2kg	べと病・さび病・(褐斑病)	—
固着性展着剤K・Kステッカー (必ず最後に調合する)	33ml	晩腐病・灰色かび病	—

3. 対象病虫害 ベと病・晩腐病・褐斑病・さび病
4. 散布量… 10a 当り ⇒SS・動噴=350ℓ

## ◆第11回の薬剤散布について

1. 散布時期… 前回散布14日以内 散布日 月 日
2. 使用薬剤… 殺菌剤:i c ボルドー66D 50倍
3. 調合量… 水100ℓ 当り ※混用順に記載

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
i c ボルドー66D	2kg	べと病・さび病・(褐斑病)	—
固着性展着剤K・Kステッカー (必ず最後に調合する)	33ml	晩腐病・灰色かび病	—

4. 散布量… 10a 当り ⇒SS・動噴=350ℓ

## 【第10・11回薬剤散布共通留意事項】

- ①散布間隔を空けずに、i c ボルドー66D 50倍又は、4-4式ボルドー液の散布を定期的に棚上まで十分散布する。
- ②i c ボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー液(生石灰400g、⑩硫酸銅400g)を使用しても良い。
- ③固着性展着剤K・Kステッカー3,000倍に代えて固着性展着剤アピオンE1,000倍(水100ℓ当り100ml)を使用しても良い。使用する場合は最初に調合する。
- ④ボルドー液は他の作物(果樹・野菜・花等)にかからないよう注意する。

- ⑤べと病が発生した場合は14日以上散布間隔を空けずに、i c ボルドー66D 50倍又は、4-4式ボルドー液の散布を定期的に棚上まで十分散布する。
- ⑥葉の苦土欠乏対策として、グリーントップ70の500倍(水1000当たり200g)又はビックマグ(リーフマグ)1,000倍(水1000当たり100g)を加用散布する。
- ⑦スリップスの発生が心配される場合は、第10回薬剤散布にアーデントフロアブル2,000倍(水1000当たり50ml・収穫前日まで)を加用散布する。

### ◆うどんこ病について

うどんこ病にかかると果実の果面に白い粉がつき時間が経つとサビになる。うどんこ病とべと病は間違えやすいので注意。べと病は軸や果実の付け根に発病をする。

### ◆クビアスカシバの対策について

- ①今年の発生時期・発生量は平年並みだが、一部突発的に多め発生している所もある。  
再発が多いので、過去発生した園や樹は特に見回る。
- ②発生が多い園では袋掛け後の8月上旬までに⑨パダンSG水溶剤1,500倍(水1000当たり66g・収穫前21日前・年間5回まで)を特別散布する。散布の際は、手散布で主幹・主枝にたっぷり掛ける。収穫21日前までの使用となるので注意する。  
大粒種のための登録ため、農薬の飛散に十分注意する。デラウェア等小粒種には登録無し。
- ③7月下旬以降より虫糞排出が目立ち始めるので、発見したら幼虫を捕殺する。
- ④スプレー式殺虫剤ロビンフット(収穫前日まで・年間5回まで)を使用してもよい。

### ◆縮果症の発生について

連続降雨と日照不足により、シャインマスカットに発生しやすい。

- 1. 症状・・・粒の果皮直下が茶色～こげ茶色に褐色し凹む。
- 2. 要因・・・連続した降雨により根が弱り、養水分が順調に吸収できない事と、枝が徒長的に伸長し、その養分を果粒から吸い取ることで発生すると推測される。
- 3. 対策・・・縮果症が発生している房の果粒はそのままにし、荷造り時に取り除くようにする。  
副梢の摘心をこまめに行い、伸長を抑える。新梢先端の摘心は盆前までに行う。

### ◆日焼け防止用傘紙の除去について

日焼け防止に使用した新聞紙は着色期(色が出揃った頃)に入ると不要になるので、着色している房から除去する。

- 1. 除去する時間帯は、午後2時～4時頃で果実温の高い時に実施する。
- 2. 遅れないように外していく。ただし、乳白のワンタッチポリ傘は外す必要はない。
- 3. シャインマスカットは収穫まで外さなくても良い。
- 4. また枝が茂っていない場所では日焼けが心配されるため、高温時期を過ぎてから行う。

## ◆高温干ばつに係わる当面の技術対応について

土壌水分が不足すると樹体の水分ストレスが発生して、老化(過熟)現象が促進され房枯れ・脱粒障害を起こしたり小粒・小房となる場合がある。

このため適度なかん水が必要であり、特に毎年穂軸が早くから黄変する園では、早目に対策を行う。

1. 高温乾燥が続く限り成長維持のためにかん水を続ける。

- ①方法 … 成熟収穫期近いかん水は、通常の30mm相当をたっぷりとするのではなく、15～20mm程度を1～3日置いて2回行うのがよい。
- ②降雨があれば、状況に応じ1回分を休んでもよい。
- ③かん水の切り上げは収穫の7日前を基準とするが、高温干ばつが続く場合は収穫中にも軽く散水を行うとよい。(ハウス栽培と同じ)

### ※裂果について

- ①一般的な裂果の発生は、糖度12～13%の時に多い。
- ②定期的なかん水ではそう心配はないが、干ばつ以降かん水していない場合は糖度を見極めてかん水する。(盆前の急激なかん水は避ける)

**※土壌が乾燥し、ひび割れる前にかん水する。一度に多量のかん水は行わない。**

## ◆ナガノパープル裂果対策について

1. 大房・着果過多による着色遅れが裂果要因となっています。

そこで粒の付け根まで早く着色が入るように、大房・着果過多になりそうな場合は袋掛け終了後でも必ず着果制限を行う。最終的な着果制限の判断は7月下旬に(現地事例より)

- ①一般的に成熟の遅い、主枝の基部付近の新梢に着房しているものを中心に、果粒の付け根の色を確認する。
- ②粒の付け根の色が進んでいない(緑色が抜けていない)場合は、着果制限をかける事により成熟が進みやすくなり、裂果の軽減になる。
- ③着果制限をかける場合は主枝の片側づつで考え、特に成熟(着色)の遅れている房を落とす。主枝の先端と基部で着房数に多少の偏りが出てしまっても問題ない。

2. かん水

- ①着色期以降は少量多回数のかん水(1回当たり10～15mm程度を週2回程度)により土壌水分の変動を抑制する。
- ②特に梅雨明け後の乾燥には注意する。
- ③5日たっても降雨がなかったら、かん水を行う!!

## ◆クイーンルージュ®の管理について

果粒軟化期の直前に新梢管理を行うと縮果症が発生しやすい。

果粒軟化期は満開(6月中旬)後の45日前後(7月末～8月初旬)

副梢の再発生が見られたら随時基部からの切除をこまめに行い、房に当たる光の量を多くする。

着果過多は成熟の遅れとなるので、成らせすぎに注意する。

成園化した場合は下記が基準となる。

2400～2800房/10a 1200～1400kg/10a 目標果房重500～550g

若木の場合は小粒で着色が早い傾向にあるので、収穫時の早取りに注意。

病害全般に弱い品種のため薬剤散布は丁寧に行う。

黒とう病や晩腐病の越冬源となる巻きひげの除去を行う。

## ◆種あり巨峰の棚面の明るさ確保について

### (旺盛な新梢は必ず摘心を実施する)

◎降雨により、新梢が伸び暗くなっている園が見られるので、新梢管理を徹底する。

1. 新梢・果房とも十分光が当たるよう、棚面の暗いところは新梢の整理を行うが、果房上に1枚の葉が乗っている状態で管理する。
2. 二番成りは、晩腐病の発生源となるので巻きひげとともに早めに整理する。
3. 若木・ウイルスフリー樹の新梢整理のポイント
  - ①今年冬の剪定時に不要となる枝(追出枝)や、樹(間伐樹)を優先して整理する。
  - ②冬季間に間引き予定側枝の中で養分を引き込んでいる太い新梢を、今のうち(7月下旬～8月上旬)に切っておく。
  - ③強くしたい枝は新梢を多く残し、弱めたいものは少なめに整理する。
  - ④植付け1～2年生のウイルスフリー樹は新芽が上下にならないよう丁寧な誘引が大切な作業となる。
  - ⑤副梢は基部から着房位置までのものはかき取り、伸びの著しい副梢は基部から2～3葉残して切る。ただし、暗くなる場合は全て基部よりかき取る。
4. 強勢なウイルスフリー樹・凍害を受け新梢がかなり旺盛に伸びている樹は、盆直後に基部から葉30～35枚程度で必ず摘心をおこない伸びを抑制し枝の登熟をはかる。(早いと二次伸長する。)これ以降も遅伸びしている新梢(副梢も含む)は全て摘心を繰り返し、枝を登熟させ来年度の発芽率を高める。(摘心は必須作業)

## ◆クイーンルージュ®の段ボール表示について

「クイーンルージュ®」を出荷する場合は、「品名」の段ボールを使用して下さい。

「クイーンルージュ®」は「商標名」であり「品種名」では無いため古い段ボールでは誤表示となる。

他の品種は在庫から使用して下さい。

### 《栽培に関する問合せ》

寺澤(篠ノ井西部・信田): 080-1188-5229 / 外谷(篠ノ井東部): 080-8048-6602

松橋(松代): 090-4816-6297 / 佐藤(川中島): 090-7179-9866

根津(更北) 080-1203-8576 / 松澤(若穂) 080-1191-5166

吉澤(全域・編集担当): 090-2543-0365 / 営農販売部(本所): 292-0930

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務)

※センター繁忙期になるため、電話をとれない場合がありますが、ご了承下さい。

伊藤(篠ノ井東部) 080-2239-6816 / 松坂(篠ノ井西部) 080-1188-413

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部(本所): 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部 / 農業資材課: 299-3311